

近畿厚生局長 殿

福井大学長  
眞 弓 光 文

福井大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成24年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	131人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	344人	8人	345.9人	看護補助者	59人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	14人	0人	14.0人	理学療法士	11人	臨床検査技師	34人
薬剤師	39人	0人	39.0人	作業療法士	4人	臨床衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	5人	その他	0人
助産師	9人	1人	9.7人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧	0人
看護師	543人	38人	566.1人	臨床工学技士	7人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	0人	0人	0.0人	栄養士	1人	その他の技術員	5人
歯科衛生士	1人	0人	1.0人	歯科技工士	1人	事務職員	219人
管理栄養士	7人	3人	9.3人	診療放射線技師	29人	その他の職員	46人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数  
歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	483.0人	5.8人	488.8人
1日当たり平均外来患者数	1,108.3人	34.5人	1,142.8人
1日当たり平均調剤数	入院：732.7剤	外来：74.6剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者数延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	0人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	0人
IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価	0人
前眼部三次元画像解析	40人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定(他の保険医療機関に対して検体の採取以外の業務を委託して実施する)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法 腹膜播種又は進行性胃がん(腹水細胞診又は腹腔洗浄細胞診により遊離がん細胞を認めるものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## (様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	血液がん薬物療法におけるkey drugの治療薬物モニタリングと遺伝子多型	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 血液悪性腫瘍患者において、そのkey drugとなる抗がん薬の血中薬物動態を測定し、治療薬物モニタリング(TDM)を行い、さらに関連する遺伝子多型の検索も加え、その治療効果および副作用との関連につき検討を行う。当研究が明らかとなり抗がん薬のTDMが一般臨床で広く可能となれば、がん化学療法は飛躍的に安全かつ効果的に行い得る。			
医療技術名	パーキンソン病患者におけるL-Dopa血中濃度測定	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 L-Dopa投与中のパーキンソン病患者で、症状の日内変動が著しい患者に対して、L-Dopa血中濃度測定を薬剤部との協力で行っている。血中濃度をモニターしながら投薬量、投薬タイミング、投薬回数決定を行っている。			
医療技術名	脳神経疾患患者に対する酸化ストレスイメージングを用いた病態解明	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 パーキンソン病をはじめとする神経変性疾患では、酸化ストレスがその病態に深くかかわっていることが注目されている。この脳内の酸化ストレスを <sup>64</sup> Cu-ATSM PETを用い画像化することに成功している。			
医療技術名	ピタバスタチンのアルツハイマー病治療への応用	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 細胞モデルを用いた検討により、アルツハイマー病の病因物質であるリン酸化タウ蛋白を減らす効果が示されたピタバスタチンを、高脂血症を合併するアルツハイマー病に投与する試みを開始している。これまで軽症例では、進行を抑制する傾向が認められている。髄液中リン酸化タウ蛋白の定量もあわせて行っている。			
医療技術名	間質性肺炎における2時相 <sup>18</sup> F-FDG PET画像の有用性と応用に関する研究	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 間質性肺炎においてDual-time-point <sup>18</sup> F-FDG PETを用い病変部の <sup>18</sup> F-FDGの集積とその変化率(RI-SUV)を検討し、これらのパラメーターが間質性肺炎の治療効果判定や間質性肺炎の急性増悪のリスク因子となりうるかという知見を確立すること。			
医療技術名	癌腹膜転移に対する化学温熱腹膜灌流(HIPEC)の開発研究	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 大腸癌、虫垂癌、卵巣癌などの腹膜転移、腹膜中皮腫などに対し、腹腔内を高温の抗癌剤を含む灌流液で温熱灌流する温熱化学療法である。			
医療技術名	胃癌腹膜播種治療におけるタキサン系抗癌剤の腹腔内投与法の確立	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 臨床研究として、胃癌腹膜播種及び腹腔細胞診陽性症例に対して腹腔ポートを用いたタキソール及びタキソテルの腹腔内投与を行っている。全身化学療法に加えて行うことで、治療成績の向上や安全性の確認、治療効果判定の確立を検討している。			
医療技術名	PETを用いた腎細胞癌治療における分子標的薬の早期治療効果判定	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 <sup>11</sup> C-acetate(AC)PETにより進行性腎癌に対する分子標的薬の早期治療効果を判定し、その結果により薬剤の継続、変更の要否判定の一助とする。AC PETは治療開始前および治療1コース終了時に実施して、評価病変におけるトレーサー集積の変化により判定する。これまでの症例では、CTでは腫瘍縮小効果が発現しない治療早期に、AC PETにより治療効果を確認することができた。			
医療技術名	アンドロゲン非依存性前立腺癌(CRPC)に対するドセタキセル療法の効果判定における <sup>18</sup> F-FLT PETの有用性	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 腫瘍の細胞増殖能を評価可能とされる <sup>18</sup> F-Fluorothymidine(FLT)を用いたPET診断を用いて、ドセタキセル療法のCRPCに対する早期治療効果を判定し、その結果により薬剤の継続、変更の要否判定の一助とする。FLT PETは治療開始前および治療1コース終了時に実施して、評価病変におけるトレーサー集積の変化により判定する。これまでの症例では、リンパ節や実質臓器に対する抗癌剤の治療効果を早期に評価できる可能性も示唆されている。			

医療技術名	PETを用いた圧迫性頸髄症に対する脊髄グルコース代謝量の定量的評価と臨床応用	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
PET imagingの臨床応用として、頸髄部の変化を確認し、圧迫病変の評価を行う。			
医療技術名	骨盤骨折の治療におけるナビゲーション支援手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
重度外傷である骨盤骨折の観血的治療において、ナビゲーションシステムによる支援を行うことで、より安全かつ正確な手術を行うことができる。			
医療技術名	フローサイトを用いた免疫担当細胞のサブセット解析	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
原発性免疫不全症や自己炎症性疾患の診断・病態把握、治療効果確認のため、通常のリンパ球サブセット解析に加え種々の活性化マーカー、シグナル伝達分子発現を測定。WASP蛋白発現、 $\gamma c$ 分子発現解析も含む。			
医療技術名	抗原特異リンパ球刺激試験	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
新生児ミルクアレルギーの診断として、リンパ球の食物抗原刺激を行い、原因抗原の同定と診断を行う。			
医療技術名	血清サイトカインプロファイル測定による炎症反応の評価	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
血清中の炎症性サイトカイン及び抗炎症性サイトカインを測定し、そのサイトカインプロファイルにより炎症病態を把握する。血球貪食症候群への移行の早期発見、治療効果の判定としても利用。			
医療技術名	グリオーマにおける $^{64}\text{Cu}$ -ATSM-PETの臨床応用	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
悪性神経膠腫組織内低酸素状態を評価し、放射線化学療法の効果予測に資する。			
医療技術名	FES-PET検査による乳がん患者における内分泌治療効果予測	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
乳癌転移腫瘍のホルモン受容体発現は、原発腫瘍のものとは比べると約30%の解離がみられ、内分泌治療効果が抗がん剤に比べて低い。より正確に内分泌治療効果を予測できる低侵襲な検査が必要である。エストロゲンの誘導体を用いたFES-PET検査をエストロゲン受容体陽性の転移再発乳癌患者に行ってFESの集積を測定することにより、従来の原発腫瘍の免疫染色法よりも正確に、乳癌転移腫瘍の内分泌治療効果予測が可能となる結果が出ている。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	18人	・膿疱性乾癬	3人
・多発性硬化症	28人	・広範脊柱管狭窄症	9人
・重症筋無力症	27人	・原発性胆汁性肝硬変	5人
・全身性エリテマトーデス	48人	・重症急性膵炎	1人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	33人
・再生不良性貧血	20人	・混合性結合組織病	17人
・サルコイドーシス	36人	・原発性免疫不全症候群	1人
・筋萎縮性側索硬化症	19人	・特発性間質性肺炎	15人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	40人	・網膜色素変性症	18人
・特発性血小板減少性紫斑病	32人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	8人	・肺動脈性肺高血圧症	1人
・潰瘍性大腸炎	48人	・神経線維腫症	8人
・大動脈炎症候群	8人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	7人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	11人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	1人
・脊髄小脳変性症	22人	・ライソゾーム病	6人
・クローン病	27人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	2人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	111人	・球脊髄性筋萎縮症	3人
・アミロイドーシス	8人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	6人
・後縦靭帯骨化症	87人	・肥大型心筋症	1人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	19人	・ミトコンドリア病	7人
・ウェゲナー肉芽腫症	3人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	15人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	16人	・黄色靭帯骨化症	8人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	28人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・膀胱水圧拡張術	・
・抗悪性腫瘍剤感受性検査(HDRA法又はCD-DST法)	・
・超音波骨折治療法	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・先天性難聴の遺伝子診断(他の医療機関に対して検体の採取以外の業務を委託するもの)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

### 6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床検査部門:年40回程度 臨床診断部門:年48回程度(週1回)
剖 検 の 状 況	剖検症例数            33 例        /        剖検率            14.86%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
白血病細胞の機能薬理に基づく抗腫瘍薬耐性の克服とテーラーメイド化学療法の確立	山内 高弘	血液腫瘍内科	1,500,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
多様化を続ける紅斑熱群の輻輳した病態解析に基づく治療制御法の確立	岩崎 博道	感染制御部	1,800,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
肝微小環境において炎症性発がんを制御するantagomirの標的創薬と前臨床試験	中本 安成	内科学(2)	3,800,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
樹状細胞と新規ケモカイン製剤の併用により肝がんの二次発がんを制御する手法の開発	中本 安成	内科学(2)	800,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
パーキンソン病および関連神経変性疾患のPET酸化ストレスイメージング	米田 誠	内科学(2)	4,500,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
慢性甲状腺炎に伴う橋本脳症における血管炎を主体とした分子免疫病態の解明	米田 誠	内科学(2)	1,800,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
肝エネルギー代謝に関する新規転写抑制因子の機能解析と代謝関連肝疾患治療への応用	根本 朋幸	内科学(2)	1,000,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
小脳失調型橋本脳症の臨床像と病態機序の解明	松永 晶子	内科学(2)	1,300,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
酸化ストレスイメージングによるパーキンソン病の病態解明と治療法開発	井川 正道	神経内科	1,700,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
性差に基づいた胃発癌抑制の試み	大谷 昌弘	光学医療診療部	1,000,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
H. Pylori のcagE, cagY解析による発癌因子CagAと疾患との関連	山川 雅希代	光学医療診療部	600,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
プロトン感知性受容体刺激のアレルギー性気道炎症と線維化へ及ぼす影響に関する研究	石塚 全	内科学(3)	1,300,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
網羅的発現遺伝子解析により抽出された高血圧関連遺伝子AT4/IRAPの役割	此下 忠志	内科学(3)	700,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
糖尿病性心筋症の発生機序における脂肪分化関連蛋白(ADRP)の機能解析	鈴木 仁弥	内科学(3)	600,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ヒト分泌型VLDL受容体濃度測定の臨床的意義とその生理機能の解明	高橋 貞夫	内分泌・代謝内科	1,100,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
非小細胞肺癌における18F-FLTおよび18F-FDG PET画像の有用性の検討	梅田 幸寛	呼吸器内科	500,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
糸球体腎炎に対するFSP1を中心とした新規治療戦略	岩野 正之	腎臓病態内科学	4,900,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
糖尿病性腎症の進展におけるポドサイドとメサンギウム細胞の相互作用の意義	岩野 正之	腎臓病態内科学	1,700,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脂質応答性転写因子の抗線維化作用の解析と新規治療薬の探索—低酸素性腎障害を中心に	木村 秀樹	腎臓病態内科学	1,600,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
レドックス生体応答反応を利用した新規のベッドサイド迅速酸化ストレス診断法の開発	糟野 健司	検査部	800,000	①補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計  
20



研 究 課 題 名	研究者氏名	所 属 部 門	金 額	補 助 元 又 は 委 託 元
慢性肺疾患の予測・治療効果判定に有用な新たなバイオマーカーの開発	徳力 周子	小児科学	1,400,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
食物アレルギーにおけるオートファジーの役割	安富 素子	小児科学	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
自閉症児のきょうだいに対する有効な支援方法の開発に関する研究	川谷 正男	小児科	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
統合失調症の認知障害に関する脳イメージング研究	和田 有司	医学部附属病院	600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
薬剤性高プロラクチン血症の新規治療法に関する臨床研究	石飛 信	精神医学	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
統合失調症の脳内ネットワーク障害に関する多面的研究：形態・生理・機能的アプローチ	高橋 哲也	神経科精神科	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
胎児末梢血内間葉系幹細胞を利用した新規胎児皮膚治療の臨床応用に向けた基礎研究	知野 剛直	皮膚科	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
大腸癌におけるケモカイン・ケモカインレセプターの発現とメカニズムの検討	山口 明夫	外科学(1)	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
FES-PETによる乳癌における内分泌療法の適応決定に関する研究	前田 浩幸	外科学(1)	700,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
EG-VEGF splicing variantのクローニングと機能解析	五井 孝憲	消化器外科	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
がん播種性転移に対する蛍光診断と光力学的治療に関する研究	片山 寛次	がん診療推進センター	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脊髄損傷における神経再生因子の同定と網羅的遺伝子解析	馬場 久敏	整形外科	1,500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脊髄障害性疼痛の分子生物学的病態解析とニューロイメージングを用いた脊髄機能評価	内田 研造	整形外科	11,900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脊髄損傷に対する骨髄間質細胞移植の有効性・機序および併用療法に関する基礎的研究	中嶋 秀明	整形外科	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
体性幹細胞を用いた変性軟骨の再生	宮崎 剛	整形外科	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
マウス損傷脊髄に対するヒト骨髄幹細胞移植後のmicrogliaの組織学的検討	渡邊 修司	整形外科	1,700,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
酢酸を用いた可逆的神経機能障害の核医学解析と局所麻酔下脳血管バイパス術の開発	菊田 健一郎	脳脊髄神経外科学	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
グリオーマの浸潤機構の解明とその阻害方法	北井 隆平	脳脊髄神経外科	1,100,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
揮発性麻酔薬のターゲットとしてのカリウムチャネルとその分子機構	松木 悠佳	麻酔・蘇生学	600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
生体機能検査を用いた子宮肉腫の病態解明の試みと治療法の模索	吉田 好雄	産科婦人科学	1,800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
超低出生体重児の消化管成熟に向けた治療戦略：肺サーファクタントを用いた動物実験	西島 浩二	産科婦人科学	1,600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
莢膜細胞／アンドロゲン系を制御する：ゴナドトロピン不応症の克服を目指して	折坂 誠	産科婦人科	1,600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計 累計  
22 42

研 究 課 題 名	研究者氏名	所 属 部 門	金 額	補 助 元 又 は 委 託 元
ジェノゲストを用いた抗癌剤からの卵巣機能保護の研究	津吉 秀昭	産科婦人科	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
エストロゲンレセプター発現PETを用いた婦人科腫瘍のホルモン療法予後予測	知野 陽子	産科婦人科	600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
メタボリック症候群：脳酸化ストレス制御はLUTS治療のプレイクスルーになり得るか	横山 修	泌尿器科学	2,500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
下部尿路閉塞により増強される膀胱粘膜自律収縮促進作用に関する研究	秋野 裕信	泌尿器科学	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
オートファジーの制御は前立腺癌治療のプレイクスルーとなりえるか	伊藤 秀明	泌尿器科学	1,900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
夜間頻尿はメタボリック症候群の発症予測あるいは進行のマーカーとなりうるか？	青木 芳隆	泌尿器科学	1,100,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
核医学的手法を用いた前立腺癌細胞におけるエストロゲン受容体発現の評価法の確立	長谷川 陽子	泌尿器科学	600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
睡眠障害と性欲／勃起障害の関連における脳由来ニューロステロイドの役割は何か	三輪 吉司	泌尿器科	2,800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
前立腺癌のエストロゲン受容体の発現とそのリガンドを用いた新規PET画像診断法	石田 泰一	泌尿器科	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脂肪酸合成酵素発現を標的とした酢酸PETによる腎癌イメージングの臨床的研究	高原 典子	泌尿器科	1,400,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ミトコンドリア視神経軸索流をバイオマーカーにした新しい緑内障診断法の創出	稲谷 大	眼科学	3,800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
再生医療を応用した新しい緑内障手術	稲谷 大	眼科学	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
水晶体における血管新生抑制因子の探索と血管新生緑内障の新しい病態概念の確立	高村 佳弘	眼科学	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
網羅的解析を組み合わせたスギ花粉症に対する遺伝子多型からの発症予防と治療戦略	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	3,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
生体用共焦点レーザー顕微鏡によるヒト鼓索神経切断後の味蕾退縮・再生過程の解明	齋藤 武久	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	2,800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
G2checkpoint abrogationによる頭頸部癌抗癌剤耐性の克服	成田 憲彦	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
キメラ分子による好塩基球活性化の制御とスギ花粉症の新規治療	山田 武千代	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
アレルギー性鼻炎関連遺伝子ORMDL3遺伝子とウイルス感染の関連	坂下 雅文	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
アレルギー性鼻炎における感作・発症に関する研究	意元 義政	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ES細胞から甲状腺濾胞上皮細胞への分化誘導及び体内でのホルモン産生の研究	菅野 真史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,400,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
カテキンによる上皮増殖因子受容体蛋白分解の分子機構解明と口腔癌増殖抑制作用の検討	吉村 仁志	歯科口腔外科学	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ホーミング分子を組み込んだ末梢血単核球細胞による骨再生	大場 誠悟	歯科口腔外科	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計 累計  
22 64

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
生理的食塩水等の既存臨床薬剤を用いたMRリンパ管イメージング法の開発	小坂 信之	放射線医学	700,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
東日本大震災における避難所で発生した呼吸器疾患のリスク因子の調査	川野 貴久	救急医学	1,900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
冬眠の低体温療法への応用をめざして	信川 泰成	集中治療部	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
Kチャンネル選択性のメカニズムの解明	三田 建一郎	集中治療部	2,600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脳画像解析と遺伝子多型解析の融合による注意欠陥多動性障害 (ADHD) の病態解明	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	6,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
fMRIを用いた愛着障害の神経基盤の評価システム	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
広汎性発達障害者の脳形態・脳機能異常と生物学的マーカー異常の関連	小坂 浩隆	子どものこころの発達研究センター	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
学童期自閉症スペクトラムにおけるオキシトシン関与の解明	ハツ賀 千穂	子どものこころの発達研究センター	2,600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
津波被災地をフィールドとした下肢静脈エコソ見と止血機能検査の研究	山村 修	地域医療推進講座	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
好酸球性副鼻腔炎の診断基準作成と網羅的解析に関する研究	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	11,270,000	補委 国立保健医療科学院
新規尿酸降下薬のPK/PD理論に基づく腫瘍融解症候群のリスク別治療指針の確立	山内 高弘	血液腫瘍内科	300,000	補委 公益財団法人痛風財団
房水内血管新生抑制因子の解明	稲谷 大	眼科	2,000,000	補委 公益信託参天製薬創業者記念眼科医学研究基金
認知行動療法ロールプレイングゲーム「SPARX」の日本応用	ハツ賀 千穂	子どものこころの発達研究センター	300,000	補委 公益財団法人科学技術融合振興財団
脊椎靭帯骨化症（後縦靭帯骨化症・黄色靭帯骨化症）の骨化巣伸展における軟骨細胞肥大と骨芽細胞分化誘導に関与する転写因子の研究ならびに網羅的遺伝子解析	杉田 大輔	整形外科	1,000,000	補委 公益財団法人整形災害外科学研究助成財団
18F-fluorodeoxyglucose Positron Tomography is Useful in Evaluating the Efficacy of Multidisciplinary Treatments for So-called Borderline Unresectable Pancreatic Head Cancers	村上 真	消化器外科	30,000	補委 日本ハイパーサーミア学会
入力型BMI電気刺激を用いた運動と感覚の再生法の研究開発	神澤 朋子	神経内科	2,600,000	補委 総務省
実地臨床におけるバイオリムス溶出性ステント (BES) とエベロリムス溶出性ステント (EES) の有効性及び安全性についての多施設前向き無作為化オープンラベル比較試験【NOBORI Biolimus-Eluting versus XIENCE/PROMUS Everolimus-eluting Stent Trial: NEXT	宇随 弘泰	循環器内科	1,540,000	補委 財団法人生産開発科学研究所
多層カーボンナノチューブを用いた導電性の高い手術用脳波電極の開発	北井 隆平	脳脊髄神経外科	3,500,000	補委 独立行政法人科学技術振興機構
タウ蛋白オリゴマーを介したアルツハイマー病の分子機序の解明	濱野 忠則	神経内科	816,000	補委 独立行政法人科学技術振興機構
インスリン抵抗性・食後高血糖改善による心筋梗塞再発予防に関する大規模薬剤介入試験	宇随 弘泰	循環器内科	120,000	補委 国立循環器病研究センター

小計 累計  
20 84

研 究 課 題 名	研究者氏名	所 属 部 門	金 額	補 助 元 又 は 委 託 元		
治癒切除結腸癌（StageⅢ）を対象としたフツ化ピリミジン系薬剤を用いた術後補助化学療法の個別化治療に関するコホート研究	山口 明夫	消化器外科	525,000	補 ⑤委 公益財団法人先端医療振興財団		
植込み型除細動器（ICD）による持続的STモニタリングの有効性に関する検討ESTIMATION試験	李 鍾大	循環器内科	30,000	補 ⑤委 特定非営利活動法人 インターベンションのエビデンスを創る会	小計	累計
「StageⅢ結腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX6療法またはXELOX療法における5-FU系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験」 付随研究 「StageⅢ結腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX6療法またはXELOX療法における5-FU系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験 付随研究」	山口 明夫	消化器外科	126,000	補 ⑤委 財団法人がん集学的治療研究財団	計	
						87

(注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	巻	号	頁	発行年月	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Cardiol	159	2	144-149	2012.08	Relationship between microcirculatory dysfunction and resolution of ST-segment elevation in the early phase after primary angioplasty in patients with ST-segment elevation myocardial infarction	天谷 直貴	循環器内科
Cancer Sci	103	9	1722-1729	2012.09	Induction of DNA strand breaks is critical to predict the cytotoxicity of gemtuzumab ozogamicin against leukemic cells	山内 高弘	内科学(1)
Anticancer Res.	32	10	4479-4483	2012.10	Wilms' tumor-1 transcript in peripheral blood helps diagnose acute myeloid leukemia and myelodysplastic syndrome in patients with pancytopenia	山内 高弘	内科学(1)
Anticancer Res	32	11	5051-5057	2012.11	Early relapse is associated with high serum soluble interleukin-2 receptor after the sixth cycle of R-CHOP chemotherapy in patients with advanced diffuse large B-cell lymphoma	山内 高弘	内科学(1)
日本化学療法学会雑誌	60	5	549-552	2012.09	血液疾患に合併した発熱性好中球減少症に対する meropenem 1g1日3回投与の臨床的有用性	池ヶ谷 諭史	内科学(1)
Cancer Sci	103	11	1974-1978	2012.11	Long-term outcome and prognostic factors of elderly patients with acute promyelocytic leukemia: Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG) APL97 study	山内 高弘	内科学(1)
Haematologica	97	9	1372-1379	2012.09	Marked upregulation of Survivin and Aurora-B kinase is associated with disease progression in the myelodysplastic syndromes	吉田 明	内科学(1)
Neuromuscul Disord	22	8	755-758	2012.08	Winged scapula in patients with myotonic dystrophy type 1	濱野 忠則	内科学(2)
Immuno-Gastroenterology	1	2	127-135	2012.10	Clinical relevance and sequence analysis of the Helicobacter pylori dupA region from two areas in Japan with different gastric cancer risks	中本 安成	内科学(2)
Cancer Gene Ther.	19	5	312-319	2012.05	Membrane-bound form of monocyte chemoattractant protein-1 enhances antitumor effects of suicide gene therapy in a model of hepatocellular carcinoma	中本 安成	内科学(2)
Stem Cells Dev.	21	16	3044-3054	2012.11	Nucleostemin in Injury-Induced Liver Regeneration	中本 安成	内科学(2)
Hepatol. Res.	42	6	523-542	2012.06	Guideline on the use of new anticancer drugs for the treatment of Hepatocellular Carcinoma	中本 安成	内科学(2)
Eur. Neurol.	69	1	14-20	2013.01	Hashimoto's encephalopathy as a treatable adult-onset cerebellar ataxia mimicking spinocerebellar degeneration	松永 晶子	内科学(2)
PLoS One.	7	12	e52926	2012.12	TNF- $\alpha$ and Tumor Lysate Promote the Maturation of Dendritic Cells for Immunotherapy for Advanced Malignant Bone and Soft Tissue Tumors	中本 安成	内科学(2)
Hepatology	57	4	1484-1497	2012.11	Discrete nature of EpCAM(+) and CD90(+) cancer stem cells in human hepatocellular carcinoma	中本 安成	内科学(2)
Annual Review神経	2013	-	204-210	2013.01	自己免疫性小脳失調	松永 晶子	内科学(2)
Neurol Sci	33	2	395-397	2012.04	Hashimoto's encephalopathy presenting with micrographia as a typical feature of parkinsonism	米田 誠	内科学(2)

小計

17

雑誌名	巻	号	頁	発行年月	題名	発表者氏名	所属部門
Neurobiol Aging	33	109	2306-2320	2012.10	Pitavastatin decreases tau levels via the inactivation of Rho/ROCK	濱野 忠則	内科学(2)
OncoImmunology	1	8	1448-1450	2012.11	A glypican-3-derived peptide vaccine against hepatocellular carcinoma	大藤 和也	内科学(2)
Clinical Lung Cancer	13	6	458-463	2012.11	Prospective Study of Gefitinib Readministration After Chemotherapy in Patients With Advanced Non-Small-Cell Lung Cancer Who Previously Responded to Gefitinib	飴嶋 慎吾	呼吸器内科
Diabetes Technol Ther	14	7	545-551	2012.04	Differential Effects of $\alpha$ -Glucosidase Inhibitors on Postprandial Plasma Glucose and Lipid Profile in Patients with Type 2 Diabetes Under Control with Insulin Lispro Mix 50/50	鈴木 仁弥	内科学(3)
Environ Health Prev Med	18	1	16-23	2012.05	Decreased activity of daily living produced by the combination of Alzheimer's disease and lower limb fracture in elderly requiring nursing care	此下 忠志	内科学(3)
Am J Case Rep	14	-	20-25	2013.01	Situs inversus and cystic kidney disease: Two adult patients with this Heterogeneous syndrome	此下 忠志	内科学(3)
Int J Geriatr Psychiatry	28	3	233-241	2012.04	Increased systemic inflammatory interleukin-1 $\beta$ and interleukin-6 during agitation as predictors of Alzheimer's disease	此下 忠志	内科学(3)
J. Cardiol	59	3	258-265	2012.05	Serum deoxyribonuclease I activity can be a useful diagnostic marker for the early diagnosis of unstable angina pectoris or non-ST-segment elevation myocardial infarction	荒川 健一郎	循環器内科学
Circ J	76	9	2096-2103	2012.08	Radiofrequency catheter ablation of persistent atrial fibrillation decreases a sleep-disordered breathing parameter during a short follow-up period	夢田 浩	循環器内科学
Eur J Heart Fail	14	10	1112-1120	2012.10	Prediction and mechanism of frequent ventricular premature contractions related to hemodynamic deterioration	夢田 浩	循環器内科学
Circ J	76	11	2546-2551	2012.10	Prevalence and influence of hyperthyroidism on the long-term outcome of catheter ablation for drug-refractory atrial fibrillation	夢田 浩	循環器内科学
Circ J	76	10	2337-2342	2012.09	Efficacy and Safety of Periprocedural Dabigatran in patients undergoing catheter ablation of atrial fibrillation	夢田 浩	循環器内科学
Heart Rhythm	9	11	1769-1778	2012.11	Electrogram organization predicts left atrial reverse remodeling after the restoration of sinus rhythm by catheter ablation in patients with persistent atrial fibrillation	夢田 浩	循環器内科学
Heart Rhythm	10	3	331-337	2013.03	Concomitant obstructive sleep apnea increases the recurrence of atrial fibrillation following radiofrequency catheter ablation of atrial fibrillation: clinical impact of continuous positive airway pressure therapy	夢田 浩	循環器内科学
Circ J	77	7	1695-1704	2013.03	Significant Improvement of Left Atrial and Left Atrial Appendage Function After Catheter Ablation for Persistent Atrial Fibrillation	夢田 浩	循環器内科学
日腹部救急医学会誌	32	6	1057-1060	2012.09	消化管穿孔手術症例の表層SSI予防に対する皮下ドレーンの有用性	成瀬 貴之	消化器外科
Int J Oncol	42	2	565-573	2013.01	The activation of proteinase-activated receptor-1 (PAR1) promotes gastric cancer cell alteration of cellular morphology related to cell motility and invasion	藤本 大裕	消化器外科
Int J Oncol	40	4	960-964	2012.04	MUC2 protein expression status is useful in assessing the effects of hyperthermic intraperitoneal chemotherapy for peritoneal dissemination of colon cancer	藤島 由佳	外科学(1)

小計

18

雑誌名	巻	号	頁	発行年月	題名	発表者氏名	所属部門
Oncology Research	19	12	527-534	2012.12	RIN1-Ras-ERK Pathway Plays an important Role in Carcinogenesis in Colon Cancer Cell Line LoVo	井上 剛志	外科学(1)
EXPERIMENTAL AND THERAPEUTIC MEDICINE	4	3	370-374	2012.09	Polysaccharide K suppresses angiogenesis in colon cancer cells	佐藤 嘉紀	外科学(1)
J Palliative Care Med	-	-	-	2012.08	Retrospective Analysis of Chemotherapy-Induced Nausea and Vomiting(CINV)in Colorectal Cancer Patients Treated with Antiemetics	五井 孝憲	外科学(1)
J Hepato-Biliary-Pancreat Sci	19	4	354-360	2012.07	Effect of the silk protein sericin on cryopreserved rat islets	大西 顕司	外科学(1)
手術	66	8	1129-1134	2012.07	Composix Mesh®を用いた巨大食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下修復術	田畑 信輔	外科学(1)
J Gastroenterol	48	-	-	2013.01	Aprepitant plus granisetron and dexamethasone for prevention of chemotherapy-induced nausea and vomiting in patients with gastric cancer treated with S-1 plus cisplatin	廣野 靖夫	外科学(1)
ONCOLOGY REPORTS	29	2	459-463	2013.02	Endocrine gland-derived vascular endothelial growth factor strengthens cell invasion ability via prokineticin receptor 2 in colon cancer cell lines	田畑 信輔	外科学(1)
Pancreas	41	6	869-875	2012.08	Validity of the Urinary Trypsinogen-2 Test in the Diagnosis of Acute Pancreatitis	山口 明夫	外科学(1)
Br J Pharmacol.	166	6	1804-1814	2012.07	Regional quantification of muscarinic acetylcholine receptors and $\beta$ -adrenoceptors in human airways	池田 岳史	外科学(2)
Eur J Cardiothorac Surg.	42	2	370-372	2012.08	An effective method of pleurodesis involving absorbable mesh for repetitive catamenial pneumothorax	池田 岳史	外科学(2)
LUTS	4	2	68-72	2012.05	Male Lower Urinary Tract Symptoms: Hypertension as a Risk Factor for Storage Symptoms, but Not Voiding Symptoms	伊藤 秀明	泌尿器科学
International Cancer Conference Journal	1	2	79-82	2012.04	Metastatic myxofibrosarcoma of the spermatic cord responding to mesna, adriamycin, ifosfamide, and dacarbazine combination therapy	伊藤 秀明	泌尿器科学
Int J Urol	20	2	193-201	2013.02	Tadalafil once daily for lower urinary tract symptoms suggestive of benign prostatic hyperplasia: A randomized placebo- and tamsulosin-controlled 12-week study in Asian men	横山 修	泌尿器科学
Neurourol. Urodyn	32	1	70-74	2013.01	IPSS is lower in hypertensive patients treated with angiotensin-II receptor blocker: Posthoc analyses of a lower urinary tract symptoms population	伊藤 秀明	泌尿器科学
Nuclear Medicine and Biology	39	7	944-947	2012.10	Monoclonal antibody RM2 as a potential ligand for a new immunotracer for prostate cancer imaging	長谷川 陽子	泌尿器科学
Skin Cancer	27	2	171-178	2012.10	CT-lymphographyを併用したセンチネルリンパ節の同定	安田 聖人	皮膚科
Int Arch Occup Environ Health	85	4	455-466	2012.05	Work-related allergy in medical doctors: atopy, exposure to domestic animals, eczema induced by common chemicals and membership of the surgical profession as potential risk factors	熊切 正信	皮膚科学
Skin Cancer	27	3	285-287	2013.02	‘ほくろ’に生じる結節を誤診するな	清原 隆宏	皮膚科学

小計

18

雑 誌 名	巻 号	頁	発行年月	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門	
Spine	37	11	E639-E646	2012.05	Cyclic tensile strain facilitates the ossification of ligamentum flavum through $\beta$ -catenin signaling pathway: in vitro analysis	彌山 峰史	整形外科
Arthritis Rheum	64	12	3908-3916	2012.12	Knee laxity after staircase exercise predicts radiographic disease progression in medial compartment knee osteoarthritis	宮崎 剛	整形外科
Artif Organs	37	2	175-182	2013.02	Modified metaphyseal-loading anterolaterally flared anatomic femoral stem: five- to nine-year prospective follow-up evaluation and results of three-dimensional finite element analysis	小久保 安朗	整形外科
Spine	37	26	2125-2135	2012.12	The retrograde delivery of adenovirus vector carrying the gene for brain-derived neurotrophic factor protects neurons and oligodendrocytes from apoptosis in the chronically compressed spinal cord of twy/twy mice	内田 研造	整形外科学
Eur J Nucl Med Mol Imaging	39	10	1528-1537	2012.10	Clinical significance of MRI/18F-FDG PET fusion imaging of the spinal cord in patients with cervical compressive myelopathy	内田 研造	整形外科学
Hand Surg	17	3	375-377	2012.10	A large neurinoma originating from the anterior interosseous nerve	馬場 久敏	整形外科学
J Bone Miner Metab	31	2	136-143	2013.03	A genome-wide sib-pair linkage analysis of ossification of the posterior longitudinal ligament of the spine	馬場 久敏	整形外科学
Eur J Orthop Surg Traumatol	23	2	155-163	2013.02	Fracture of the acetabulum: a retrospective review of ninety-one patients treated at a single institution	内田 研造	整形外科学
Hand Surg	18	1	49-52	2013.02	Additional method for diagnosis of carpal tunnel syndrome: value of the second lumbrical-interossei test (2L-INT)	馬場 久敏	整形外科学
Arch Phys Med Rehabil	93	11	2015-2021	2012.11	Changes in gait pattern and hip muscle strength after open reduction and internal fixation of acetabular fracture	久保田 雅史	リハビリテーション部
Gait Posture	38	3	385-390	2013.01	Postoperative gait analysis and hip muscle strength in patients with pelvic ring fracture	久保田 雅史	リハビリテーション部
国立大学法人リハビリテーションコ・メディカル学術大会誌	33	-	83-85	2012.05	健康人における吸気負荷量の違いが胸鎖乳突筋の筋酸素動態に及ぼす影響	野々山 忠芳	リハビリテーション部
J Phys Ther Sci	24	9	817-820	2012.10	Histopathological changes in surrounding tissue of the sciatic nerve after spinal cord injury in rats	北出 一平	リハビリテーション部
国立大学法人リハビリテーションコ・メディカル学術大会誌	33	-	18-21	2012.05	脳梗塞患者における発症時意識障害の有無が経口摂取獲得に与える影響	小林 美奈子	リハビリテーション部
Endocrinology	153	11	5522-5534	2012.11	Nuclear receptor 5A(NR5A) family regulates 5-aminolevulinic acid synthase 1(ALAS1) gene expression in steroidogenic cells	松村 健大	眼科学
Japanese Journal of Ophthalmology 2012	56	5	464-469	2012.05	Prognostic risk factors for failure of trabeculectomy with mitomycin C after vitrectomy	稲谷 大	眼科学
Investigative Ophthalmology Visual Science 2012	53	6	3092-3103	2012.06	The effect of Rho-associated protein kinase inhibitor on monkey Schlemm's canal endothelial cells	稲谷 大	眼科学
Journal of Cataract & Refractive Surgery 2012	38	8	1389-1397	2012.08	Simultaneous increases in multiple proinflammatory cytokines in the aqueous humor of pseudophakic glaucomatous eyes	稲谷 大	眼科学

小計



雑 誌 名	巻	号	頁	発行年月	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
日本眼科学会誌	116	9	856-861	2012.09	線維柱帯切除術における術後フレア値の前向き臨床試験 単独手術と超音波乳化吸引術同時手術との比較	稲谷 大	眼科学
Investigative Ophthalmology & Visual Science 2012	53	13	7951-7960	2012.12	Elevated Levels of Monocyte Chemoattractant Protein-1 in the Aqueous Humor after Phacoemulsification	稲谷 大	眼科学
Graefe's Archive for Clinical and Experimental Ophthalmology 2013	25	1	825-830	2013.01	Long-term Efficacy of Goniosynechialysis Combined with Phacoemulsification for Primary Angle Closure	稲谷 大	眼科学
Molecular and Cellular Endocrinology	370	1~2	1-10	2013.02	Transcriptional regulation of human ferredoxin 1 in ovarian granulosa cells	松村 健大	眼科学
Allergy Asthma Proc	33	2	e9-16	2012.04	Efficacy of mometasone furoate nasal spray for nasal symptoms, quality of life, rhinitis-disturbed sleep, and nasal nitric oxide in patients with perennial allergic rhinitis	山田 武千代	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
Clin Exp Immunol	169	1	1-9	2012.07	Cytosine-phosphate-guanosine-DNA induces CD274 expression in human B cells and suppresses T helper type 2 cytokine production in pollen antigen-stimulated CD4-positive cells	山田 武千代	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
Auris Nasus Larynx	39	6	641-645	2012.12	A case of sinonasal teratocarcinoma treated with surgery and post-operative intensity-modulated radiotherapy (IMRT)	徳永 貴広	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
Molecular and Cellular Endocrinology	369	1-2	42-51	2013.02	Androgen/Androgen receptor pathway regulates expression of the genes for cyclooxygenase-2 and amphiregulin in periovulatory granulosa cells	菅野 真史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
Nat Genet	44	11	1222-1226	2012.10	Genome-wide association study identifies eight new susceptibility loci for atopic dermatitis in the Japanese population	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
アレルギー・免疫	19	8	48-54	2012.08	環境と職業のアレルギー性鼻炎への影響—黄砂も含めて—	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
口腔・咽頭科	25	2	217-222	2012.06	当科における小児深頸部膿瘍の検討	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
Otol Neurotol	33	9	1567-1572	2012.12	Comparison of regeneration of the chorda tympani nerve and gustatory function recovery after severing the nerve between pediatric and adult patients	齋藤 武久	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
The Journal of Allergy and Clinical Immunology	130	2	410-420	2012.08	Glandular mast cells with distinct phenotype are highly elevated in chronic rhinosinusitis with nasal polyps	高林 哲司	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
The American Journal of Respiratory and Critical Care Medicine	187	1	49-57	2013.01	Excessive fibrin deposition in nasal polyps caused by fibrinolytic impairment through reduction of tissue plasminogen activator expression	高林 哲司	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
Auris Nasus Larynx	39	6	553-556	2012.12	Examination, diagnosis and classification for Japanese allergic rhinitis: Japanese guideline	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
Korean J Asthm Aller Clin Immunol	32	別冊2	s251-s252	2012.05	New strategy of the monitoring and the treatment for allergic rhinitis	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
Journal of Oral and Maxillofacial Surgery	70	11	e667-673	2012.11	Gustatory sweating in the submandibular region following neck dissection: a case with thermographical evaluation and review of the literature	吉村 仁志	歯科口腔外科
Public Library of Science One	7	7	e40833	2012.07	In vivo comparison of the bone regeneration capability of human bone marrow concentrates vs platelet-rich plasma	大場 誠悟	歯科口腔外科

小計

18

雑誌名	巻	号	頁	発行年月	題名	発表者氏名	所属部門
International Journal of Oral and Maxillofacial Implants	28	1	77-83	2013.01	Evaluation of sinus floor augmentation with simultaneous implant placement using platelet-rich fibrin as sole grafting material	大場 誠悟	歯科口腔外科
American Journal of Orthodontics and Dentofacial Orthopedics	143	2	266-273	2013.02	Correction of an asymmetric maxillary dental arch by alveolar bone distraction osteogenesis	大場 誠悟	歯科口腔外科
Journal of Hard Tissue Biology	22	2	273-278	2013.02	Epithelium-poor type central odontogenic fibroma: An immunohistological study and review of the literature	木村 崇	歯科口腔外科
Journal of Hard Tissue Biology	22	1	147-152	2013.03	The influence of radiation therapy and hyperbaric oxygen therapy on osteoradionecrosis of the jaw	大場 誠悟	歯科口腔外科
Biochem. Biophys. Res. Commun	420	2	281-287	2012.04	BMP signaling is responsible for serum-induced Id2 expression	佐野 和生	歯科口腔外科学
Journal of Head Tissue Biology	21	3	337-340	2012.07	Application of multiplanar computed tomography and the OsiriX imaging software for precise analysis of dens invaginatus in the maxillary third molar	佐野 和生	歯科口腔外科学
Journal of Craniofacial Surgery	23	6	1773-1775	2012.11	Reconstruction of the mandible bone by treatment of resected bone with pasteurization - Long-term follow-up	佐野 和生	歯科口腔外科学
Inflammation	36	4	830-838	2013.02	IL-17A/F Modulates Fibrocyte Functions in Cooperation with CD40-Mediated Signaling	林 仁幸子	小児科
Rheumatol Int	32	12	3761-3764	2012.12	Novel mutations of MVK gene in Japanese family members affected with hyperimmunoglobulinemia D and periodic fever syndrome	畑 郁江	小児科
小児科臨床	65	5	1051-1056	2012.05	早産極低出生体重児にビタミンD蓄積・骨ミネラル代謝に対する混合栄養の有用性についての検討	大嶋 勇成	小児科学
Pediatr Int.	54	2	272-276	2012.04	Fatigue in survivors of childhood acute lymphoblastic and myeloid leukemia in Japan	谷澤 昭彦	小児科学
Pediatr Int	55	3	342-345	2013.01	Biotin and carnitine profiles in preterm infants in Japan	徳力 周子	小児科学
Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol	303	3	L208-L214	2012.08	Interactions among pulmonary surfactant, vernix caseosa, and intestinal enterocytes: intra-amniotic administration of fluorescently liposomes to pregnant rabbits	西島 浩二	産科婦人科学
Neuroscience Letters	531	1	10-13	2012.11	Effect of dietary zinc deficiency on ischemic vulnerability of the brain	小俣 直人	神経科精神科
精神科治療学	27	6	813-818	2012.06	Lithium carbonateにてセネストパチーが改善した1例	和田 有司	医学部附属病院
J. Neural Transm.	120	3	375-382	2013.03	Region-specific causal mechanism in the effects of ammonia on cerebral glucose metabolism in the rat brain	和田 有司	医学部附属病院
Progress in Neuro-Psychopharmacology & Biological Psychiatry	37	1	128-131	2012.04	Switching to aripiprazole in subjects with Pervasive Developmental Disorders showing tolerability issues with risperidone	石飛 信	精神医学
Psychiatry and Clinical Neurosciences	67	2	128-129	2013.02	Hashimoto's encephalopathy with hippocampus involvement detected on continuous arterial spin labeling	石飛 信	精神医学

小計

雑誌名	巻	号	頁	発行年月	題名	発表者氏名	所属部門
World Neurosurg	79	(3-4)	594.E1-594.E4	2013.03	Microsurgical findings of Tolosa-Hunt syndrome	小寺 俊昭	脳脊髄神経外科
Brain Tumor Pathol	29	3	140-147	2012.07	Clinicopathological features in the recurrence of oligodendroglioma and diffuse astrocytoma	竹内 浩明	脳脊髄神経外科学
Brain Tumor Pathol	29	3	154-159	2012.07	Glioblastoma with oligodendroglial components: glioblastoma or anaplastic oligodendroglial tumors	竹内 浩明	脳脊髄神経外科学
Neuroradiology	54	10	1089-1097	2012.10	Diagnosis of moyamoya disease using 3-T MRI and MRA: value of cisternal moyamoya vessels	菊田 健一郎	脳脊髄神経外科学
Brain Tumor Pathol	30	1	34-39	2013.01	Measurement and cellular sources of the soluble interleukin-2 receptor in primary central nervous system lymphoma	北井 隆平	脳脊髄神経外科学
脳神経外科ジャーナル	22	1	4-10	2013.01	手術で治療困難な脳動静脈奇形	菊田 健一郎	脳脊髄神経外科学
Neurosci Lett	517	2	87-91	2012.05	Neonatal electroencephalography shows low sensitivity to anesthesia	重見 研司	麻酔・蘇生学
J Anesth	26	4	545-551	2012.07	Effects of TrkA inhibitory peptide on cancer-induced pain in a mouse melanoma model	村田 恵理	麻酔・蘇生学
Basic Clin Pharmacol Toxicol	111	5	303-308	2012.11	Increasing membrane interactions of local anaesthetics as hypothetic mechanism for their cardiotoxicity enhanced by myocardial ischaemia	重見 研司	麻酔・蘇生学
Eur J Pharmacol	698	1-3	87-94	2013.01	Oligopeptides derived from autophosphorylation sites of EGF receptor suppress EGF-stimulated responses in human lung carcinoma A549 cells	村田 恵理	麻酔・蘇生学
Med Hypotheses	79	1	65-67	2012.07	The membrane interaction of drugs as one of mechanisms for their enantioselective effects	溝上 真樹	麻酔科蘇生科
Biol Pharm Bull	35	6	988-992	2012.06	Cardiotoxic local anesthetics increasingly interact with biomimetic membranes under ischemia-like acidic conditions	溝上 真樹	麻酔科蘇生科
Pharmacognosy Communications	2	4	58-71	2012.11	Plant components exhibit pharmacological activities and drug interactions by acting on lipid membranes	溝上 真樹	麻酔科蘇生科
Biochem Bioph Res Co	431	1	81-85	2013.02	Anesthesia with propofol induces insulin resistance systemically in skeletal and cardiac muscles and liver of rats	安田 善一	集中治療部
J Biol Chem	287	47	39634-39641	2012.11	Functional equilibrium of the KcsA structure revealed by NMR	三田 建一郎	集中治療部
外科	74	10	1101-1105	2012.10	アシアロシンチグラフィの定量解析による術前肝予備能評価-予測残肝indocyanine green消失率との対比-	土田 龍郎	放射線医学
Magn Reson Mater phy	25	(2)	103-111	2012.04	MR perfusion imaging by alternate slab width inversion recovery arterial spin labeling(AIRASL): a technique with higher signal-to-noise ratio at 3.0T	藤原 康博	放射線部
日本放射線技術学会雑誌	69	1	41-48	2013.01	骨シンチグラフィ全身プランナー像におけるTop-hat変換処理の有用性に関する検討	北 章延	放射線部

小計

雑誌名	巻	号	頁	発行年月	題名	発表者氏名	所属部門
救急医学	36	10	1152-1155	2012.09	循環・循環器疾患 CVP, PCWP	森田 浩史	救急医学
Journal of Clinical Microbiology	50	11	3604-3608	2012.11	Rapid Detection of the Mycobacterium tuberculosis Complex by Use of Quenching Probe PCR (geneCube)	飛田 征男	検査部
Anticancer Res	32	2	643-648	2012.04	A Randomized Comparison of Modified Intermediate-dose Ara-C versus High-dose Ara-C in Post-remission Therapy for Acute Myeloid Leukemia	浦崎 芳正	輸血部
J Autism Dev Disord.	-	-	-	2013.02	Recognition of Facial Expressions and Prosodic Cues with Graded Emotional Intensities in Adults with Asperger Syndrome	藤澤 隆史	子どものこころの発達研究センター
PLoS One	7	10	e47608	2012.10	Perceived parental rejection mediates the influence of serotonin transporter gene (5-HTTLPR) polymorphisms on impulsivity in Japanese adults	藤澤 隆史	子どものこころの発達研究センター
Neuro Endocrinol Lett.	33	5	525-552	2012.09	Loneliness depends on salivary estradiol levels in adolescent females	藤澤 隆史	子どものこころの発達研究センター
PLoS One	8	3	e59196	2013.03	Prenatal Exposure to a Polychlorinated Biphenyl (PCB) Congener Influences Fixation Duration on Biological Motion at 4-Months-Old: A Preliminary Study	藤澤 隆史	子どものこころの発達研究センター
Cereb. Cortex	23	6	1410-1423	2012.05	WAVE2-Abi2 Complex Controls Growth Cone Activity and Regulates the Multipolar-Bipolar Transition as well as the Initiation of Glia-Guided Migration	岡 雄一郎	こころの形成発達研究部門
PLoS One.	7	12	e52057	2012.12	Seasonal Variations of Neuromotor Development By 14 Months of Age: Hamamatsu Birth Cohort for Mothers and Children (HBC Study)	松崎 秀夫	こころの形成発達研究部門
Mol Autism.	3	1	12	2012.11	Brain Region-Specific Altered Expression, and Association of Mitochondria-Related Genes in Autism	松崎 秀夫	こころの形成発達研究部門
Brain Pathol.	23	3	294-302	2012.11	Downregulation of the Expression of Mitochondrial Electron Transport Complex Genes in Autism Brains	松崎 秀夫	こころの形成発達研究部門
Sci. Rep.	3	-	1224	2013.02	Post-natal treatment by a blood-brain-barrier permeable calpain inhibitor, SNJ1945 rescued defective neuronal migration and neuronal circuit formation in lissencephaly	岡 雄一郎	こころの形成発達研究部門
Mol Autism	4	1	6	2013.03	Enzymes in the glutamate-glutamine cycle in the anterior cingulate cortex in postmortem brain of subjects with autism	松崎 秀夫	こころの形成発達研究部門
Human Brain Mapping	33	9	2211-2223	2012.09	Associations among parenting experiences during childhood and adolescence, hypothalamus-pituitary-adrenal axis hypoactivity, and hippocampal gray matter volume reduction in young adults	小坂 浩隆	こころの形成発達研究部門
日本生物学的精神医学会誌	23	4	255-261	2013.01	自閉症スペクトラム障害の社会性障害を探る: fMRI 研究	小坂 浩隆	こころの形成発達研究部門
BMC Psychiatry	12	1	110	2012.08	Long-term oxytocin administration improves social behaviors in a girl with autistic disorder	小坂 浩隆	こころの発達開拓部門
Front in Hum Neurosci	6	268	1-15	2012.09	Hard to "tune in": Neural mechanisms of live face-to-face interaction in individuals with high-functioning autistic spectrum disorder	小坂 浩隆	こころの発達開拓部門
Cortex	48	4	492-503	2012.04	Pseudohypacusis in childhood and adolescents is associated with increased gray matter volume in medial frontal gurus and superior temporal gyrus	友田 明美	Age2企画

小計

雑 誌 名	巻 号	頁	発行年月	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Journal of Medical Genetics	49	6	2012.06	Further delineation of the phenotype of chromosome 14q13 deletions:(positional) involvement of the FOXP1 appears the main determinant of phenotype severity, no evidence for a holoprosencephaly locus	友田 明美	Age2企画
PLoS One	7	12	2012.12	Reduced visual cortex gray matter volume and thickness in young adults who witnessed domestic violence during childhood	友田 明美	Age2企画

小計

2

計

145

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。





















## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 和田 有 司
管理担当者氏名	総務管理課長 綿矢 憲之 経営企画課長 戸田 政孝 医療サービス課長 安岡 浩憲 医療情報部長 大嶋 勇成 医療安全管理部長 井俣 彰夫 感染制御部長 岩崎 博道 薬剤部長 政田 幹夫 放射線部長 木村 浩彦 ME機器管理部長 佐藤 一史

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		病院部医療サービス課（病歴室）、薬剤部、放射線部、医療情報部 ----- 各診療科	外来診療録は、1患者1ファイル、入院診療録は、1患者1入院1ファイルで病歴室において中央管理している。電子診療録として、1患者1ファイルを医療情報部において管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事労務課	
	高度の医療の実績	病院部経営企画課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院部総務管理課	
	高度の医療の研修の実績	病院部総務管理課	
	閲覧実績	病院部総務管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	病院部医療サービス課	
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院部医療サービス課及び薬剤部	
項規第一第一号に掲げる第一項各号の及び第九条の二十三第一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部	

(様式第12)

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME 機器管理部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME 機器管理部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME 機器管理部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME 機器管理部

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。



(様式13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び  
紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 和田 有司
閲覧担当者氏名	総務管理課長 綿矢 憲之
閲覧の求めに応じる場所	管理棟会議室

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	58.9 %	算定期間	平成24年4月1日 ~ 平成25年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	7,029人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	6,688人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,475人	
	D: 初診の患者の数	19,110人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項各号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
・ 指針の主な内容： (1) 医療に係る安全管理の基本的考え方 (2) 医療に係る安全管理の体制 (3) 職員研修に関する基本方針 (4) 医療に係る安全確保の改善方策に関する基本方針 (5) 医療上の事故発生時の対応に関する基本方針 (6) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針(患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む。) (7) 相談への対応に関する基本方針 (8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容： (1) 医療安全管理の指針に関すること。 (2) 医療安全管理の対策及び改善に関すること。 (3) 医療安全管理に係る指導及び助言に関すること。 (4) その他医療安全管理の重要事項に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 17 回
・ 研修の主な内容： (1) 医師、看護師、薬剤師を対象に、平成24年5月31日に院内講師による「抗がん剤の暴露防止に関する講習会」について、第1部講義形式、第2部実技形式で研修を行った。 (2) 全職員を対象に、平成24年7月25日に院内講師による「RST(呼吸ケアサポートチーム)活動はじめます」についての研修を行った。 (3) 各部署リスクマネージャーを対象に、平成24年7月31日にRCA分析研修会を行った。 (4) 全職員を対象に、平成24年8月24日に外部講師による「医療安全～これまでの取り組みとこれからの課題～」についての研修を行った。 (5) 医師、看護師、コメディカルを対象に、平成24年9月26日に院内講師による「生体情報モニタと人工呼吸器管理の基礎知識と落とし穴」についての研修を行った。 (6) 全職員を対象に、平成25年1月7日に院内講師による「福島第一原発事故の教訓～知っていますか？本院の災害対策マニュアルを～」についての研修を行った。 (7) 全職員を対象に、平成25年1月23日に院内講師による「地域医療に関わるリスクマネジメント～知らなきゃ損・知れば百人力 必要なこと教えます～」についての研修を行った。 (8) 全職員を対象に、平成25年3月5日に院内講師による「放射線部におけるCT・MRI検査の安全な運用のために」についての研修を行った。 (9) 全職員を対象に、平成25年3月7日に院内講師による「考えたことありますか？きずの裏側 ～褥瘡が治らない理由を一緒に考えてみよう～」についての研修を行った。 (10) 全職員を対象に、平成25年3月8日に院内講師による「オカレンス事例からの学び」についての研修を行った。 (11) 全職員を対象に、平成25年3月19日に外部講師による「医療系の情報セキュリティ対策」についての研修を行った。 (12) 全職員を対象に、平成25年3月30日に事例分析(ImSAFER)研修会を行った。  他5件	

(様式第13-2)

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) オカレンスレポートは医療安全管理部に報告され、GRMと部員が日々モニタリングを行い、現場確認を行っている。また、内容により各部署における対策の確認が必要な場合は、医療安全管理部長より文書で提出を依頼し、医療安全管理部で内容を確認し検証を行っている。</li> <li>(2) 医療事故防止強化月間を定め、重要事項を決めて医療事故防止に取り組んでいる。</li> <li>(3) 医療安全管理部員が毎月2回実施部署を決め、院内パトロールを実施している。</li> <li>(4) 各部門の管理者は週1回カンファレンスを行い、医療安全対策に係る取組の評価等を行っている。</li> </ol> </li> </ul>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> ( 4 名 ) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> ( 4 名 ) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任( 4 )名 兼任( 17 )名</li> <li>・ 活動の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 医療安全管理委員会への情報提供及び改善等の提案に関すること。</li> <li>(2) オカレンスの収集、調査、分析及び防止策に関すること。</li> <li>(3) オカレンスレポートで報告された医療上の事故について、影響レベルの判定に関すること。</li> <li>(4) 医療上の事故防止に係る提言及び指導に関すること。</li> <li>(5) 医療安全管理に関する教育、研修及び啓発に関すること。</li> <li>(6) 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確、かつ、十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>(7) 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>(8) 各部門のリスクマネージャーとの連絡調整及びリスクマネージャー会議の運営に関すること。</li> <li>(9) その他医療の安全管理に関すること。</li> </ol> </li> </ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じられる体制の確保状況	<input checked="" type="radio"/> ・ 無

## 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 院内感染対策に関する基本的考え方</li> <li>(2) 院内感染対策に関する管理体制</li> <li>(3) 職員研修に関する基本方針</li> <li>(4) 感染症発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>(5) 院内感染発生時の対応に関する基本方針</li> <li>(6) 指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>(7) その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針</li> </ol> </li> </ul>	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 院内感染対策指針に関すること。</li> <li>(2) 感染予防対策の確立に関すること。</li> <li>(3) 感染予防の実施，監視及び指導に関すること。</li> <li>(4) 感染源の調査に関すること。</li> <li>(5) 感染予防に係る諸調査及び情報の収集に関すること。</li> <li>(6) その他感染対策についての重要事項に関すること。</li> </ol> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 8 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 全職員を対象に、平成24年6月18日に院内講師による「結核初期対応の基礎知識、感染対策から見た肺結核と画像検査の実際、当院における抗酸菌検査の現状と問題点」について研修を行った。</li> <li>(2) 全職員を対象に、平成24年8月7日に外部講師による「不活化ポリオワクチンの導入、麻疹風疹排除最終状況、今後定期接種化が望まれるワクチン」についての研修を行った。</li> <li>(3) 医療従事者を対象に、平成24年8月23日に院内講師による「最近の耐性菌の動向と抗菌薬処方」についての研修を行った。</li> <li>(4) 全職員を対象に、平成24年10月22日に外部講師による「感染症の予防とは敵を良く知ること～ペットから感染する病気を学びませんか～」についての研修を行った。</li> <li>(5) 全職員を対象に、平成24年11月21日に院内講師による「接触感染予防対策」についての研修を行った。</li> <li>(6) 全職員を対象に、平成25年2月1日に外部講師による「HIV感染症における早期診断の重要性」についての研修を行った。</li> <li>(7) 全職員を対象に、平成25年3月8日に院内講師による「ICTミーティングの報告、感染管理リンクナースの取り組み」についての研修会を行った。</li> <li>(8) 全職員を対象に、平成25年3月15日に外部講師による「ICタグを用いた手術器具トレーサビリティ確保の試み～外科医の視点よりみた現状報告～」についての研修会を行った。</li> </ol> </li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 感染症発生状況は感染制御部に報告され、感染制御部のメンバーのうち医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成されたICTが、日々モニタリングを行い、1週間に1回程度、定期的に院内を巡回し、現場確認を行っている。また、内容により各部署における対策の確認が必要な場合は、感染制御部長より文書で提出を依頼し、部会で内容を確認し検証を行っている。</li> <li>(2) 感染制御部員が定期的に実施部署を決め、ラウンドを実施している。</li> <li>(3) 各部署のリンクナースはICNと連携し、各看護単位の感染対策上の問題点を抽出し、改善策を実践している。</li> </ol> </li> </ul>	

## 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：           <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 抗がん剤の暴露防止に関する講習会（2012. 5. 31）</li> </ol> </li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (有) 無 )</li> <li>・ 業務の主な内容：           <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理部のカンファレンス（週1回）参加。問題点について病棟等のラウンドを行い、確認・指導を行った。</li> <li>2. 医療安全管理部の安全パトロールに参加し、医薬品の指示・指示受けの手順等が順守されているか実地確認し、指導を行った。</li> <li>3. 医療環境制御センターニュースに月1回、医薬品安全使用に関する原稿を執筆し、啓蒙を行った。</li> <li>4. 各部署のリスクマネージャーに業務の自己点検を依頼し、問題箇所を実地点検した。</li> <li>5. 医薬品の安全使用のための業務手順書を見直し、改訂を行った。</li> </ol> </li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有) 無 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：           <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品情報室を中心に、PMDAメディナビ、SAT-E-DIなどの情報源ならびに学術雑誌等の一次資料も活用して、医薬品の安全に関する情報収集を継続的に実施している。</li> <li>2. 新薬採用に際しては、薬剤師が製薬企業からヒアリングを実施し、安全使用に係る問題点を事前把握するよう努めている。</li> <li>3. 病棟薬剤業務を開始し、臨床で医師・看護師等から質問を受けるとともに、カンファレンス等の機会を利用した情報提供を行っている。医師・看護師からの問合せについては、その内容と回答をデータベース化し、メーリングリストで薬剤師に配信することにより、内容の精度向上、教育等に利用している。</li> </ol> </li> </ul>	

### 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 80 回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>新規購入の医療機器に関し、納品時に使用説明を求めに研修を行った。</li><li>人工呼吸器や床目番守り向きの医療機器に関し、不定期に研修を実施した。</li><li>新規採用職員を対象とした医療機器の研修を行った。</li></ol></li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>計画の作成 (有 無)</li><li>保守点検の主な内容： 里安医療機器に関し、年間保守計画を立てて定期的に実施している。 また、必要に心して定期的に点検を実施している医療機器もある。</li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医療機器に係る情報の収集の整備 (有 無)</li><li>その他の改善のための方策の主な内容： (財)日本医療機器評価機構及び(独)医薬品医療機器総合機構から情報を収集し、必要に応じて医療安全管理部と医療機器安全管理委員会により、活用及び改善対策を取っている。</li></ul>	